

くすりのしおり

内服剤

2022年07月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名: ジスロマック錠 250mg

主成分: アジスロマイシン水和物 (Azithromycin hydrate)

剤形: 白色の錠剤、長径 13.6mm、短径 6.9mm、厚さ 5.6mm

シート記載など: ZITHROMAC 250mg、ジスロマック 250mg、Pfizer、ZTM 250



この薬の作用と効果について

マクロライド系抗生物質で、病原細菌の蛋白合成を阻害することによって抗菌作用を示します。

通常、皮膚感染症、呼吸器感染症、尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患などの感染症治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。肝機能障害、心疾患がある。薬を飲んで、ショック（じんましん、むくみ、胸苦しさ、顔面が青白くなる、冷汗、息苦しさなど）の症状を起こしたことがある。本人または家族がじんましん・喘息などのアレルギー体質である。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（ : 医療担当者記入）
- ・深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎：通常、成人は1回2錠〔アジスロマイシンとして500mg（力価）〕を1日1回、3日間〔合計1,500mg（力価）〕服用します。
尿道炎、子宮頸管炎：通常、成人は1回4錠〔アジスロマイシンとして1,000mg（力価）〕を1回服用します。
骨盤内炎症性疾患：通常、成人はアジスロマイシン注射剤による治療を行った後、1回1錠〔アジスロマイシンとして250mg（力価）〕を1日1回、服用します。
いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、1日以内に気がついた場合であれば、気がついた時点で1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合、聴力障害（声や音が聞こえづらい、耳が詰まる感じ、耳鳴り）があらわれる可能性があります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに医師に連絡してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・本剤を服用中および服用終了後に、中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群が疑われる症状〔発疹に加え、粘膜（口唇、眼、外陰部）のびらんあるいは水ぶくれなどの症状〕があらわれた場合には、服用を中止し、ただちに医師に連絡してください。
- ・意識障害などがあらわれることがありますので、車の運転などの危険を伴う機械を操作する際には十分注意してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、下痢、腹痛、吐き気、嘔吐、腹部不快感、腹部膨満、血栓性静脈炎、カンジダ症、注射部位疼痛、発疹、じんましん、かゆみなどが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・呼吸困難、喘鳴（ヒューヒュー音）、顔や唇のむくみ・のどの腫れ〔ショック、アナフィラキシー〕
- ・発疹、粘膜のびらん・水ぶくれ、高熱〔中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、急性汎発性発疹性膿疱症〕
- ・全身けん怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる〔肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全〕
- ・尿量減少、手足や顔のむくみ、のどの渇き〔急性腎障害〕
- ・腹痛、頻回の下痢、血便〔偽膜性大腸炎、出血性大腸炎〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。